

研究所だより

第317号
2012年2月29日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3016

<平成24年度 市教研関係>

過日、教研推進委員会が開催されました。協議事項、確認事項等の報告をします。

1, 教研推進委員（地区代表）

地区および部署	担当校・担当部署	役職
下ノ加江地区	下ノ加江中学校	委員
清水Ⅰ地区	窪津小学校	委員
清水Ⅱ地区	清水小学校	委員
半島地区	足摺岬小学校	委員
三崎地区	三崎小学校	委員
下川口地区	下川口中学校	委員
市教組	教文部長	委員長
渭南教組	教文部長	副委員長
校長会	校長会会長	副委員長
教育委員会	指導主事	事務局
教育研究所	研究員	事務局

2, 教研日程

第1回教研推進委員会 4月17日（火）15:30～16:45
組織教研 4月25日（水）15:30～16:45
一日教研 8月23日（木）9:00～16:45
半日教研 11月7日（水）13:30～16:45
総括教研 2月初旬までに

* 一日教研講演会内容

講師 直山 木綿子 先生（現在、文科省教育課程調査官）
演題 未定（外国語教育にかかわっての講演内容です）

3, 市教研部会編成については

部会：部会は従来通り
会員数5名以上で成立
4月当初には部会希望をとって名簿を各校に配布

4, 教研推進委員会

- ・年間5回の開催予定
- ・開催時間にかかわって、15時30分を開催時間としていますが、議題によっては16時開催もあり得る。
- ・推進委員の仕事内容等は第1回の推進委員会で詳細決定

5, 市教研英語部会の名称を変更

次年度より市教研英語部会を『市教研外国語部会』に変更します。

6, 統合に向けての市教研の在り方や部会構成等（討議された学校の意見）

- ・小中連携の形で今までの部会を存続
- ・部会を絞る方向で（例えば、数学部会と算数部会を一つに）
- ・夏の研修でまかなえる部会は廃止には（例えば、情報部会など）

*この事につきましては、来年度の検討課題として、職場討議をお願い致します。

7, 冊子「清水の教育」にかかわって

本年度も昨年度同様、冊子とCDを各学校に配布します。配分については昨年通りとしますので、学校にて振り分けてください。

来年度以降は、冊子の数を減らし、CDまたはメールで送付することも視野に入れています。

<ビデオ・DVD一覧表>

研究所にあるビデオ・DVDの一覧表をホームページに載せてあります。「土佐清水市教育センター」で検索し、『所蔵書籍、ビデオ等』を開いていただければ見ることが出来ます。新規購入分も随時載せていきますのでご活用ください。

<「清水の教育」原稿、ありがとうございました>

各学校、市教研各部会、研究協力校、研究グループ、へき複部会と、それぞれに原稿いただきました。ご協力ありがとうございました。早速に印刷会社に作成依頼をお願いすることができました。3月中旬頃にはお手元へ届くかと思えます。

すべてに目を通させていただきました。当初、研究所では、校正はしないということでしたが、誤字、脱字、表現等々、表記上訂正する部分がありましたので、その部分につきましては訂正をさせていただきました。

苦言を呈しますが、次年度は原稿作成後は複数の目で読み直しをしていただければ幸いかと思えます。そうすれば、原稿作成担当者の苦労もはかり知ることが出来ますし、何よりも自分たちの1年間の歩みが集約されているわけですから、自分のものとすることができ、次年度に続く取り組みが確認できるものと思えます。

また、原稿の様式についてですが、基本は、A4版、44字×36行で、6枚以内となっています。くれぐれも宜しくお願い致します。詳細は土佐清水市教育センターのホームページに載せています。（来年のことを言ったら鬼が笑うそうですが、まだ笑う姿は見たことがありません）

<教師の仕事> 一向山洋一著「学級経営」より抜粋

教室は子どもが生きていくための場であるが、しかし、それだけではない。

教室は子どもが生きている場でもある。

その一瞬、その一瞬を、子どもは生きている。

教室は教師である私の仕事場であるが、しかし、それだけではない。

教室は、教師である私が生きている場でもある。

その一瞬、その一瞬を、教師は子どもと共に生きている。

だから、私は、子どもたちと楽しい生活を送りたい。